

スイッチの自動音声仮想ローカルエリアネットワーク(VLAN)設定のリセット

目的

音声仮想ローカルエリアネットワーク(VLAN)は、Voice over Internet Protocol(VoIP)機器からのトラフィックが、IP電話、VoIPエンドポイント、音声システムなどの音声デバイスで構成される特定のVLANに割り当てられるときに使用されます。スイッチは、ポートメンバーを自動的に検出して音声VLANに追加し、音声VLANからのパケットに設定済みのQuality of Service(QoS)を割り当てることができます。音声デバイスが異なる音声VLANにある場合、通信を提供するにはIPルータが必要です。

自動音声VLANにより、スイッチは他のデバイスから音声VLAN情報を検出し、Cisco Discovery Protocol(CDP)およびLink Layer Discovery Protocol(LLDP)アドバタイズメントを通じてIP電話を検出できます。スイッチが使用する音声VLANは、他のデバイスから動的に学習できます。MACアドレスが最も小さいデバイスに属する音声VLANが使用される

Auto Voice VLANモードがイネーブルになっている場合は、Auto Voice VLANページを使用して、関連するグローバルパラメータとインターフェイスパラメータを表示します。自動音声VLANをリセットすると、スイッチ上の音声VLANがデフォルトの音声VLANに設定されます。また、自動音声VLANが有効になっているネットワーク内のスイッチ上で、検出プロセスと同期プロセスが再度開始されます。

この記事では、スイッチの自動VLAN設定をリセットする方法について説明します。

適用可能なデバイス

- Sx200シリーズ
- Sx250シリーズ
- Sx300シリーズ
- Sx350 シリーズ
- SG350X シリーズ
- Sx500 シリーズ
- Sx550X シリーズ

[Software Version]

- 1.4.7.06 — Sx200、Sx300、Sx500
- 2.2.5.68 — Sx250、Sx350、SG350X、Sx550X

スイッチの自動VLAN設定のリセットの設定

動作ステータスのリセット

重要:次の手順に進む前に、スイッチでVLANが設定されていることを確認してください。スイッチでVLAN設定を行う方法については、[ここ](#)をクリックして手順を参照してください。スイッチで音声VLANを設定する方法については、[ここ](#)をクリックしてください。

ステップ 1 : Webベースのユーティリティにログインし、Display Mode ドロップダウンリストから Advanced を選択します。



注 : Sx200、Sx300、またはSx500シリーズスイッチがある場合は、[ステップ2](#)に進んでください。

ステップ 2 : VLAN Management > Voice VLAN > Auto Voice VLANの順に選択します。

▼ VLAN Management

VLAN Settings

Interface Settings

Port to VLAN

Port VLAN Membership

Private VLAN Settings

GVRP Settings

▶ VLAN Groups

▼ Voice VLAN

Properties

Auto Voice VLAN

Telephony OUI

Telephony OUI Interface

▶ Access Port Multicast TV VLAN

▶ Customer Port Multicast TV VLAN

注：メニューオプションは、使用しているスイッチによって異なる場合があります。この例では、SG350Xスイッチが使用されています。

このページのOperation Statusブロックには、現在の音声VLANとその送信元に関する情報

が表示されます。

Operational Status

Auto Voice VLAN Status:	Enabled
Voice VLAN ID:	1
Source Type:	Default
CoS/802.1p:	5
DSCP:	46
Root Switch MAC Address:	0c:27:24:1f:47:a8
Switch MAC Address:	0c:27:24:1f:47:a8
Voice VLAN ID Change Time:	2016-Nov-22 13:33:13

Restart Auto Voice VLAN

- Auto Voice VLAN Status:Auto Voice VLANが有効かどうかを表示します。
- Voice VLAN ID : 現在の音声VLANのID。
- Source Type : ルートデバイスによって音声VLANが検出された送信元のタイプを表示します。
- CoS/802.1p:LLDP-MEDが音声ネットワークポリシーとして使用するCoS/802.1p値を表示します。
- DSCP:LLDP-MEDが音声ネットワークポリシーとして使用するDSCP値を表示します。
- ルートスイッチのMACアドレス : 音声VLANの学習元である音声VLANを検出するか、その音声VLANで設定された自動音声VLANルートデバイスのMACアドレス。
- スwitchのMACアドレス : デバイスのベースMACアドレス。スイッチのMACアドレスがルートスイッチのMACアドレスである場合、そのデバイスは自動音声VLANルートデバイスです。
- Voice VLAN ID Change Time : 音声VLANが最後に更新された時刻。

注 : この例では、6が選択されています。

ステップ 3 : Restart Auto Voice VLANをクリックして音声VLANをデフォルトにリセットし、LAN内のすべてのAuto-Voice-VLAN対応スイッチでAuto Voice VLANディスカバリを再起動します。

Operational Status

Auto Voice VLAN Status:	Enabled
Voice VLAN ID:	1
Source Type:	Default
CoS/802.1p:	5
DSCP:	46
Root Switch MAC Address:	0c:27:24:1f:47:a8
Switch MAC Address:	0c:27:24:1f:47:a8
Voice VLAN ID Change Time:	2016-Nov-22 13:33:13

Restart Auto Voice VLAN

ステップ 4 : [OK] をクリックして続行します。



Auto Voice VLAN will be restarted. Do you want to continue?



音声VLANローカルソーステーブルの更新

音声VLANローカルソーステーブルには、デバイス上で設定されている音声VLANと、直接接続されたネイバーデバイスによってアドバタイズされたすべての音声VLAN設定が表示されます。次のフィールドが含まれます。

- Interface : 音声VLAN設定が受信または設定されたインターフェイスを表示します。「N/A」と表示される場合は、デバイス自体で設定が行われています。インターフェイスが表示される場合、ネイバーから音声設定を受信しています。
- 送信元MACアドレス : 音声設定の受信元であるUnited Communications(UC)のMACアドレス。
- Source Type : 音声設定の受信元のUCのタイプ。次のオプションを使用できます。

- Default : デバイスのデフォルトの音声VLAN設定。

- Static : デバイスで定義されているユーザ定義音声VLAN設定。

- CDP : 音声VLAN設定をアドバタイズしたUCはCDPを実行しています。

- LLDP : 音声VLAN設定をアドバタイズしたUCはLLDPを実行しています。

- Voice VLAN ID : アドバタイズまたは設定された音声VLANのID。

- Voice VLAN ID : 現在の音声VLANのID。
- CoS/802.1p:LLDP-MEDが音声ネットワークポリシーとして使用する、アドバタイズまたは設定されたCoS/802.1p値。
- DSCP:LLDP-MEDが音声ネットワークポリシーとして使用する、アドバタイズまたは設定されたDSCP値。
- Best Local Source : この音声VLANがデバイスによって使用されたかどうかを表示します。次のオプションを使用できます。

- Yes : デバイスはこの音声VLANを使用して、他の自動音声VLAN対応スイッチと同期します。この音声VLANは、優先順位の高い送信元からの音声VLANが検出されない限り、ネットワークの音声VLANです。1つのローカルソースのみが最適なローカルソースです。

- いいえ - これは最適なローカルソースではありません。

ステップ5: (オプション) 新しい音声VLAN設定を行った場合は、Refreshをクリックしてページの情報を更新します。

Voice VLAN Local Source Table						
Interface	Source MAC Address	Source Type	Voice VLAN ID	CoS/802.1p	DSCP	Best Local Source
N/A	N/A	Default	1	5	46	Yes
<input type="button" value="Refresh"/>						

これで、スイッチの自動音声VLAN設定が正常にリセットされました。

Auto Voice VLAN

Operational Status

Auto Voice VLAN Status: Enabled
 Voice VLAN ID: 40
 Source Type: Default
 CoS/802.1p: 6
 DSCP: 46
 Root Switch MAC Address: 0c:27:24:1f:47:a8
 Switch MAC Address: 0c:27:24:1f:47:a8
 Voice VLAN ID Change Time: N/A

Voice VLAN Local Source Table						
Interface	Source MAC Address	Source Type	Voice VLAN ID	CoS/802.1p	DSCP	Best Local Source
N/A	N/A	Default	1	5	46	No
N/A	N/A	Static	40	6	46	Yes
<input type="button" value="Refresh"/>						

翻訳について

シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版（リンクからアクセス可能）もあわせて参照することを推奨します。